

福祉教育講座

7月19日に福祉教育講座をふれあいの郷もくせい様や手話サークルもみじ様の協力を得て実施しました。1年生は車いす体験、2年生は手話体験、3年生は介助体験を行いました。各学年の感想を挙げます。

○車いす体験（1年生） 今回の講座はとても勉強になりました。私は車いすを押したことはあったけれど、乗ったことはありませんでした。実際に乗ってみると押す側の体感する速さより速く感じたので、車いすを押す機会があれば、自分が感じる速さよりゆっくり押すことを心がけていきたいと思いました。今回、学んだことを忘れず今後活かしていきたいと思います。（1年女子）



今日の車いす体験を通じて車いすに乗っている人の気持ちやそれを押している人の気持ち、さらに車いすを買う経済的な問題もわかりました。今日、体験を通して学んだことを活かして福祉社会に貢献しようと思いました。（1年男子）

○手話体験（2年生） 手話の講座を受けて、耳の不自由な方の会話の方法が手話だけではなく、他にもいくつか方法があることを知りました。耳の不自由な人は生活をしていく中で、分からないことがあると、とても困るのだなと思いました。これからいろいろな人に協力して、一緒に過ごせるようになりたいです。（2年生女子）



耳が聴こえないというのは、すごく恐いし、普段の生活も不便でならないのは大変だと思った。それでも一生懸命生きる人はすごく強いと思った。僕だったら不安でたまらないだろうし、前向きな考えでは生きていけないと思う。それでもトータルコミュニケーションという5つの手段を使えたら、たとえ聴こえなくても楽しそうに思う。みんなそろって手話で歌を歌ったのが楽しかった。（2年生男子）

○介助体験（3年生）相手の体勢を変えるだけで起こしたり、立ってもらったりすることがとても楽になり、自分が将来介護職についた時に必要になることなので覚えておこうと思いました。（3年男子）



高齢者を経験するためには重いおもりをつけたり、視界を悪くするためのゴーグルをつけたりしてとても歩きにくいし、階段を上ったり降りたりするのが大変だった。

またベッドの上に倒れて誰かに起こしてもらってそこから車いすにのせるのはとても大変だと分かった。そう考えると介護している人は大変だとよく分かった。（3年女子）